

WORKTECH™ Tokyo

WORK / WORKPLACE / TECHNOLOGY / INNOVATION

EXPLORE THE FUTURE OF WORK AND THE WORKPLACE

オンラインフォーラム

2026年9月14日[月] 8:00 - 9月24日[木] 23:59

＊11日間限定配信

イベントスポンサー

プラチナ スポンサー PLATINUM SPONSOR

KOKUYO

シルバースポンサー SILVER SPONSORS



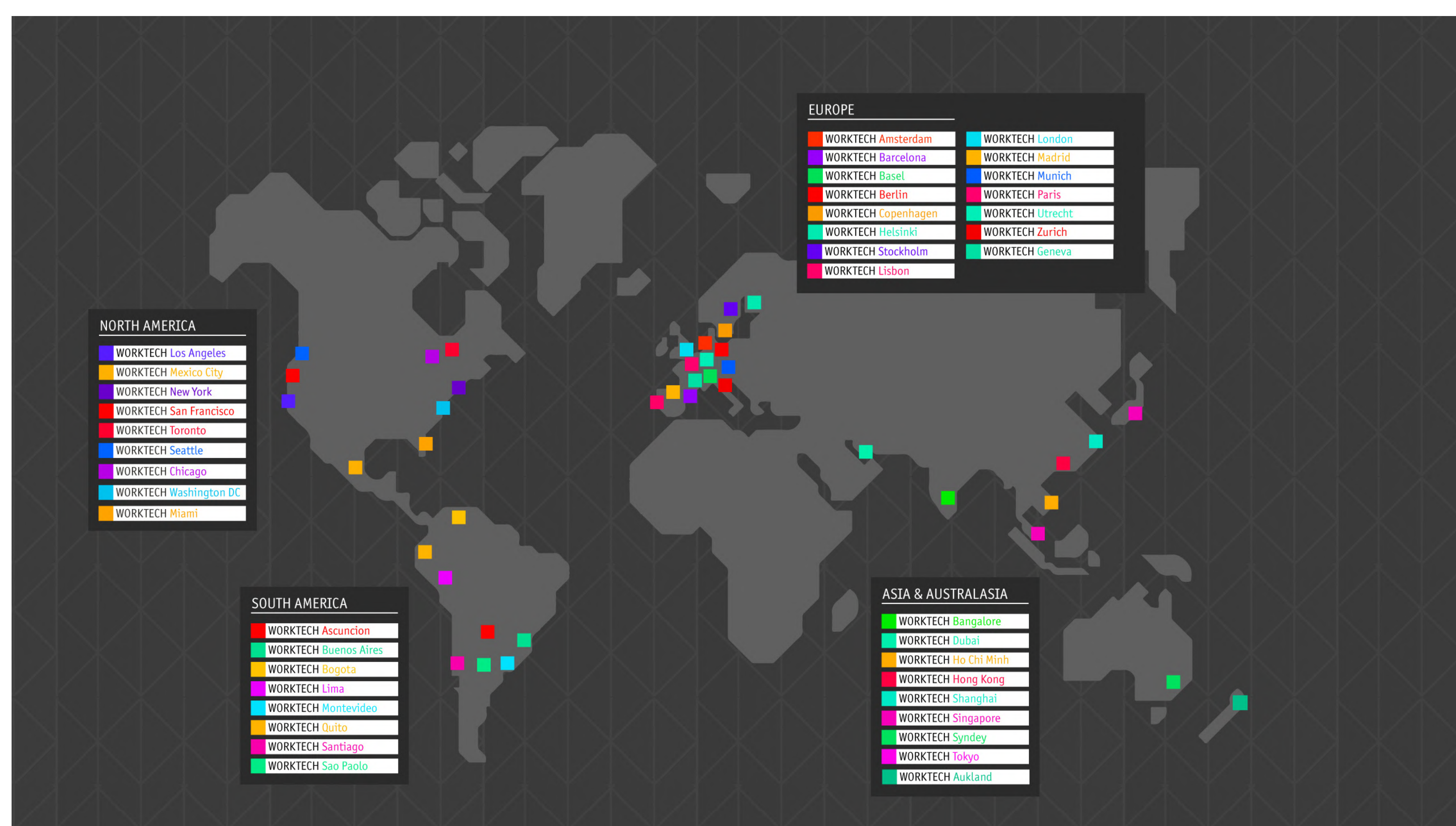
BUNSHODO

イベント協力 — SUPPORTED BY



WORKTECHとは

WORKTECH は、仕事とワークプレイスの未来に関して、認識を深め、変化を促し、スペシャリスト達のインサイトを提供することを目的とした総合的なリサーチ・プラットフォームです。当フォーラムは、2003年にフィリップ・ロス氏とジェレミー・マイヤーソン氏によって立ち上げられた初の業界特化型カンファレンスを母体としており、現在ではワークプレイス・インテリジェンスに関する世界有数のカンファレンスであり、この分野における新たな思想形成や議論がなされています。



今年で設立 23年目を迎えた WORKTECH は、今や世界40 都市以上に拡大しています。、フォーチュン500に名を連ねる先進的な業界のプロフェッショナルを集め、国際的なリーダーから学び、仕事とワークプレイスの未来について話し合い、考察する場を提供しています。

過去のWorktechイベント開催地については、こちらをご覧ください

WORKTECHは、仕事とワークプレイスの未来に携わるプロフェッショナルのための主要な国際フォーラムであり、学際的な講演、双方向のディスカッション、創造性を高めイノベティブ思考の限界を押し広げる事例共有を通じて、ワークプレイス コミュニティに新しいアイデアとインスピレーションをもたらしています。



企業のシニア エグゼクティブの意思決定者とのネットワーク

ワークプレイスの最新トレンドを知る機会



仕事とワークプレイス分野の世界的リーダーから話を聞く絶好の場

ベストプラクティスとイノベーションから得るインスピレーション



アジェンダ



人と仕事を動かす、場所の力。

働く場所は、単に仕事をするための空間ではありません。
組織の壁を越えて人がつながる。働くことへの気持ちが変わる。
地域との新しい関係が生まれる。

ENEOSリニューアブル・エナジー、文部科学省、Workcation House Uという
異なる3つのプロジェクトを通して、場所が人の行動や関係性、そして働き方を
どのように変えていくのかを
紹介します。



神経多様性を包摂する場づくりとはーニューロインクルージョンとニューロエステティクスによる高付加価値空間の創出 The Biological Imperative: Crafting High-Impact Places through Neuroinclusion and Neuroaesthetics

人間の脳は、毎秒1,100万ビットもの感覚データが押し寄せますが、私たちが意識的に処理しているのはごく一部に過ぎません。人口の20%を占めるニューロダイバージェント（神経多様性を持つ）人々にとって、こうした感覚的な「攻撃」は、認知的疲労や生産性の低下、そして物理的な排除につながる可能性があります。高機能な空間を設計するには、感覚的なセンスだけでなく、音・照明・温熱快適性・空間構成に対して脳がどのように反応するかについての深い理解が求められます。本セッションでは、ニューロインクルージョン（感覚環境のマネジメント）とニューロエステティクス（美しさや調和に対する生物学的な反応）の交差点を探ることで、アートとサイエンスの橋渡しを行います。画一的なアプローチを超え、環境が私たちの感情・行動・ウェルビーイングをどのように形作るかに向き合う実践的なフレームワークを紹介します。人間の神経学的多様性の全範囲を考慮し意図的にデザインすることで、空間を単なる機能的な殻から、誰もが真に活躍できる直感的で受容的な体験へと変革していきます。

Kay Sargent（ケイ・サージェント）
Director of Workplace, HOK

40年にわたるキャリアを持ち、目的意識を持つ人間中心の環境づくりをリードする世界的な第一人者。HOKにてインテリア部門のディレクター・オブ・ソートリーダーシップを務め、ワークプレイス戦略と不動産イノベーションの分野を切り拓いている。ニューロインクルーシブ デザインの著名な提唱者として、著書『Designing Neuroinclusive Workplaces』を執筆したほか、建築環境をテーマに米国連邦議会で証言を行った経験を持つ。Delos、IFMA、ASIDなど複数の団体でアドバイザーを務める。2025年にはASID Luminary of Distinctionを受賞し、Top 50 Global FM Influencerにも選出されるなど、仕事の未来を切り拓くインクルーシブで影響力のある空間づくりの最前線に立ち続けている。



現代のワークプレイスをデザインするーオフィスからイノベーション・プラットフォームへ Designing the Contemporary Workplace: From Office to Innovation Platform

企業がオフィスの存在意義を見直す中、ワークプレイスの建築デザインには、個人の生産性向上にとどまらない、より広い役割が求められています。コラボレーション、学び、実験、ウェルビーイング、そして長期的な適応力を実現すると同時に、周辺都市やコミュニティにもポジティブな影響を与えることが必要と考えます。本セッションでは、BIG（ビャルケ・インゲルス・グループ）のパートナーであるAndy Young氏が、WORKTECHのJeremy Myerson氏と共に、大規模なワークプレイスプロジェクトにおける要件がどのように変化しているかを語ります。ロンドン、ベルリン、ブラチスラバなどBIGが手がけたプロジェクトの事例をもとに、柔軟性の高い建築プラットフォーム、AI時代の働き方、生物多様性、都市とのつながり、そして不確実な未来に向けてワークプレイスのリーダーが応用できる設計原則について議論します。

Andy Young（アンディ・ヤング）
Partner, BIG

2016年にBIGへ入社し、ロンドンオフィスのテクニカル・ディレクターに就任。2021年よりパートナーを務める。大規模プロジェクトの設計・建設において35年以上の経験を持ち、特に英国、欧州、中東地域を専門とし、ベルリンの「East Side Tower」をはじめ、BIGのロンドンにおける全プロジェクトなど、数々の主要プロジェクトを率いる。手がけたプロジェクトには、キングスクロスにあるGoogleの新英国本社、120 Fleet Street、Red Lion Court、Canada Water Docksideなどが含まれる。近年は、サウジアラビアにおけるホスピタリティ関連プロジェクトや、コンペで勝ち取ったプリシュティナの「コソボ・オペラ＆バレエ劇場」も担当。現在も、ミラノのCitywaveプロジェクトを含むロンドンスタジオの全プロジェクトの技術設計・実施を統括するとともに、ロンドンスタッフ向けの人材育成プログラムを主導。BIG入社以前は、20年間Rogers Stirk Harbour & Partnersに在籍し、ロンドン市内の「The Leadenhall Building」（通称『チーズグレーター』）をはじめとする数多くの著名プロジェクトを率いた実績も持つ。英国登録建築家であり、RIBA（英国王立建築家協会）会員。1993年、Michael Hopkins & Partners在籍中にウェストミンスター大学で建築学のディプロマを取得し、ARB登録建築家資格を取得。

WORKTECH Academy ・ Royal College of Art (RCA) Research Professor
Jeremy Myerson（ジェレミー・マイヤーソン）

ワークプレイスのデザインとイノベーションの研究者、著者、活動家。Royal College of Art(RCA)のヘレンハムリンデザインの教授であり、オックスフォード大学の客員研究員。ワークプレイスデザインに関する影響力のある書籍を多く出版しており、韓国、スイス、香港のデザイン機関の国際諮問委員会の委員も務める。Wired誌で英国のデジタルテクノロジー分野で最も影響力のある100人の1人へ選出。デザインに関する研究への功績が認められ、2016年にRCAから名誉博士号を授与。





unwork

世界で最もスマートなワークプレイス – JPモルガン「270 パーク・アベニュー」の内側とは The World's Smartest Workplace: Inside JP Morgan's 270 Park Avenue

JPモルガン・チェースの新社「270 Park Avenue」は、ハイブリッドワークの時代において「世界で最もスマートなビル」という大胆な位置づけを掲げています。本セッションでは、この象徴的なプロジェクトをケーススタディとして取り上げながら、AI・センサー・インテリジェントシステムが企業のワークプレイスをどのように変革しているかを掘り下げます。テクノロジーの話にとどまらず、フラッグシップとなる本社の存在が今なお意味を持つのか、真にパフォーマンスや体験を左右するものは何か、そして巨額の予算をかけずとも企業が学べる教訓は何かを問いかけます。未来のワークプレイスが真に求められているものは何か、テンポよく示唆に富んだ解説をします。

Philip Ross（フィリップ・ロス）
Author and futurist, and founder and CEO, UnGroup and Cordless Group

著者、未来学者として、また新しい働き方に関するアドバイザーとして、テクノロジーの進化が私たちの働き方・買い方・学び方・余暇の過ごし方・暮らし方に与える影響に関する予測を専門とする。特にワークプレイスにおけるイノベーションに注力し、McKinsey & Co、Marks & Spencer、EY、Allen & Overy、Penguin Random House、GSK、Barclays、Macquarie Group、BBC、PwC、BCGなど、多くの組織にイノベーションや未来構想に関する助言を行っている。1994年に『The Cordless Office Report』の発表とともに自身の事業を設立。以来、『The Creative Office』『The 21st Century Office』『Space to Work』（いずれもJeremy Myerson氏との共著）など、仕事の未来をテーマにした著書を多数執筆。『The Corporate Fool』『Jelly Bean Working』『The Responsible Workplace』など、その他の書籍やレポートにも寄稿。最新刊（Jeremy氏との共著）は『Unworking: The Reinvention of the Modern Office』。2022年8月31日にReaktion Booksより出版され、米国ではシカゴ大学出版局（10月6日）を通じて配信。本書は過去100年にわたる近代オフィスの発展を俯瞰しつつ、時代遅れとなったオフィスのために築かれた古い習慣や慣習を手放し、デジタルテクノロジー・デザインイノベーション・多様な労働力の時代にふさわしい新しいあり方を築く「unworking」というマニフェストを提唱している。また、基調講演やプレゼンテーションを定期的に行うほか、変革の過程にある組織向けにシンクタンクやワークショップを運営。The Financial Times、The Sunday Times、Forbes、The Wall Street Journal、BBC Radio 4、The Australian、OnOffice、France 24 TVなど、多くのメディアで数多くに取り上げられている。Philip氏が率いる企業グループには、UnWork、Unwired（WORKTECH Events）、WORKTECH Academyから成るUnGroup、そしてCordless ConsultantsとCordless Resourcingから成るCordless Groupがある。



WORKTECH
ACADEMY

ヒューマン・アドバンテージ – 未来のワークプレイスが「人のパフォーマンス」のためにデザインされる理由とは The Human Advantage: Why the future workplace is designed for human performance

AIによる業務の自動化が進む中、企業は人々が最高のパフォーマンスを発揮できる空間をいかに創出するかという課題に直面しています。本プレゼンテーションでは、なぜ「パフォーマンス」がワークプレイスリーダーにとって最重要の課題となったのか、そしてAIが組織行動・ワークプレイスデザイン・リーダーシップをどのように変えつつあるのかを探ります。WORKTECH Academyのグローバルネットワークによる最新のリサーチと事例研究を基に、最も高いパフォーマンスを発揮する組織が、テクノロジー単体ではなく、連携、認知能力、集団的知性を軸に働き方を再設計する理由を明らかにします。

Kasia Maynard（カーシャ・メイナード）
Head of Research & Editorial, WORKTECH Academy

WORKTECH Academyのエディトリアル&リサーチ部門責任者。ジャーナリストとしての訓練を受け、仕事とワークプレイスの未来に関するリサーチおよび執筆に7年間携わってきた。都市デザイン・都市計画の修士号を保有し、仕事の未来が都市空間のデザインをどのように形作りうるかという交差点をテーマに活動。



Booking.com

Booking.comのワークスペース – データ、実験、そして「人」という要素とは The Booking.com Workspace: Data, Experiments and the Human Factor

ハイブリッドな働き方が広がる世界において、物理的な環境は人と人とのつながりを大きく高め、それによって組織文化を強化します。Booking.comは、世界中の11,000人全社員に向けて「健康的で、幸福感があり、生産性の高い」ワークスペースを実現するという挑戦的な目標を掲げました。ワークプレイスサービスチームは、データとリアルタイムの実験の両方を活用しながら、空間の実際の利用者である社員との対話を継続することでこの目標達成に取り組んでいます。本セッションでは、その目標をどのように達成したか、またそのプロセスで得られた重要な学びを共有します。

Marnix Mali（マルニックス・マリ）
Director of Real Estate & Workspace Services, Booking.com

Booking.comにて、グローバルのReal Estate & Workspace Servicesチームを牽引。国際人事のバックグラウンドを持ち、2012年にBooking.comへ入社する以前は、複数の多国籍企業・複数の大陸にわたり、ゼネラルマネジメント職を歴任。データと実験に基づき、物理的なワークスペースがいかに人々の成功と仕事を最大限に後押しできるかというテーマを、主要な関心領域とする。



KOKUYO

幸せは「あいだ」に宿る：個人のWell-beingから、調和のWe-Beingへ Happiness Resides in the "In-Between": From Individual Well-being to Harmonious We-Being

喜びを分かち合える相手がいる。ほっと馴染める場所がある。京都大学と共同で行った9カ国調査で見えてきたのは、働く幸せが、そうした人や場との「あいだ」の体験に宿っているということでした。孤独が世界的な課題となるいま、本セッションでは「We-Being（職場の協調的幸福感）」の調査結果をひも解きながら、「あいだ」を再構築して、持続可能な幸せが育まれる職場環境を考察します。

Yasuhiro Tanaka (田中 康寛)
コクヨ ワークスタイル研究所 所長

オフィス家具のマーケティングを担当した後、「働き方」や「未来社会」に関するリサーチ・コンサルティング活動に従事。人間工学、UX、データサイエンス、産業・組織心理学などの知見を活用し、働き方・働く場・働く人にまつわる統計調査や質的研究に携わる。



急速に変化するテック業界のワーク環境における、データドリブンなワークプレイス戦略とは
Data-Driven Workplace Strategies in a Rapidly Changing Tech Work Environment

Metaの出社ポリシーは、地理的に分散したチームにおいて、社員が働く場所に関し柔軟性を持たせています。多様なチームの変化し続けるニーズに合わせてワークスペースの供給を最適化するため、MetaのGlobal Workplace Servicesチームはデータドリブンなアプローチを採用し、各チームに合わせた活気あふれる環境を構築することで、従業員のエンゲージメントを高め、生産性と効率性を向上させています。本セッションでは、戦略プランニング、ワークプレイスデザイン、リサーチ、データアナリティクスの各分野をリードするメンバーから、そこで得られた知見や避けるべき落とし穴、そしてこのアプローチが組織でどのように応用できるかを紹介します。

Loren Honda（ローレン・ホンダ）
Global Workplace Strategic Programs & Initiatives, Meta

MetaにてGlobal Workplace Strategic Programs & Initiativesを統括。スケーラブルでデータドリブン、かつ「人」を起点としたワークプレイス・ソリューションの設計に注力している。業務の多くはデータに基づく意思決定を軸としながらも、部門横断的に連携し、オペレーション・パートナーの成功を支える緻密なフレームワークを構築するとともに、変化し続けるビジネスニーズの柔軟な対応を指揮。

Chirag Kadiwar（チラグ・カディワール）
Global Workplace and Real Estate, Meta

Metaのディレクター兼Workplace Strategy & Planningグローバル統括責任者として、同社が保有する2,000万平方フィートに及ぶグローバルポートフォリオ全体のワークプレイスおよびテクニカルラボ戦略の策定・実行をリード。不動産計画をMetaの長期的な事業目標と整合させ、進化し続けるグローバル展開を支えることに注力。Meta入社以前は、Genentech（ジェネンテック）に約7年間在籍し、600万平方フィートのポートフォリオに対する不動産・スペース戦略を策定。シナリオプランニング、財務分析、ワークプレイスの効果測定などを幅広く手がける。

James Abeyta（ジェームズ・アベイタ）
Workplace Design Manager, Meta

MetaのWorkplace Design Managerとして、北米における同社ポートフォリオ全体のワークプレイスデザインをリード。ワークプレイス戦略、建築、データが交差する領域で活動し、コラボレーションやイノベーション、進化し続ける働き方を支える柔軟でハイパフォーマンスな環境づくりに携わる。ファシリティ・ワークプレイス業界で18年以上の経験を持つ登録建築家であり、業界イベントにおいてのAI、ワークプレイスデザイン、オフィスの未来についての知見の定期的発信を行う。

Celeste Velasquez（セレステ・ベラスケス）
Head of Data Analytics and Engineering, Meta

MetaのGlobal Workplace ServicesにてData and Analyticsディレクターを務め、社員のワークプレイス体験向上とオペレーションの最適化に向けたデータに基づく戦略の推進に取り組む。データサイエンスおよびビジネスインテリジェンスのバックグラウンドを持ち、複雑なワークプレイスデータを実用的なインサイトへと転換することを専門とする。イノベーションへの情熱を持ち、変化し続けるワーク環境を支えるスケーラブルなアナリティクス・ソリューションの提供に向けて、部門横断的なチームをリード。

Gabor Nagy（ガーボル・ナジ）
Head of Global Workplace Research, Meta

MetaにてGlobal Workplace Researchを統括し、社内の多様なチームと部門横断的に連携しながら、ワークプレイス体験と未来のワークプレイスをテーマに取り組む。世界各地でリサーチプロジェクトに携わり、新たなワークプレイスコンセプトの試験導入や、その成果を測定するためのツール開発を行うとともに、データドリブンな意思決定に向けてリーダーシップ層へ戦略的なインサイトを提供し続ける。



「使われない共用スペース」の時代が終わる – オーナーとテナントの関係を変える、新しいシェアード・ハイブリッドの形とは The Era Of The Wasted Common Space Has Finally Come To An End. Welcome To The New Shared Hybrid Revolutionising Landlords And Tenants

将来に向けて、全ての人に意義のあるワークスペースを創り出すには、何が必要なのでしょうか。より良い家具でしょうか、多様な選択肢でしょうか、ハイテクなイノベーションでしょうか、それとも立地でしょうか、あるいは全く別の何かでしょうか。答えが何であれ、実現には関係者全員が方向性を合わせ、それぞれの役割を果たすことが求められます。経済的な不確実性を背景に、デベロッパーやランドロード（オーナー）はこうした動きを理解し、積極的に取り入れつつあり、商業不動産における共用スペースのオーナーと利用者の間には、新たな潮流が生まれ始めています。本セッションでは、スタッフをオフィスへ呼び戻すためのクリエイティブな最新の取り組みと、それが皆さまにとって何を意味するのかを、登壇者とともに紐解きます。

Paul Luciani（ポール・ルチアーニ）
APAC Real Estate Leader, EY

エグゼクティブ・ディレクターとして、不動産・調達・間接経費分野におけるインフラストラクチャー・マネジメントを統括。32カ国、ほぼすべての業界セクターにわたり、25年以上の業界リーダーシップの経験を持つ。将来のトレンドの方向性を示す、業界内で高く評価されるソートリーダー・研究者でもある。多国籍・グローバル組織におけるチーム編成とリーダーシップの実績を有する。

Andrew Conquest（アンドリュー・コンクエスト）
Innovations Lead for RE Real Estate and Technology, EY

EYのEnterprise Technology and Platform Management部門、オフィス・ソリューションチームにて、アジア太平洋地域の戦略・リレーションシップ担当リードを務める。IoTおよびワークプレイス向けアプリを専門とし、EY@Workの環境と体験を高めるべく、デジタルソリューションとテクノロジーイノベーションの統合を図るEYのテクノロジー・不動産チームを支援。現職に就く以前は、Real Estate Business EnablementチームにおいてWMSプログラムのリーダーを務め、アジア太平洋・インド・MENA地域でEYの会議室予約システムの導入を推進。2006年にEYへ入社後、最初の8年間はオセアニア地域のコーポレート・ホスピタリティサービスの管理に従事。ビジネスと顧客重視の姿勢は、30年以上にわたるホスピタリティ業界でのキャリアに由来する。



シンボルとしての都市、戦略としての都市 – ニューヨークにおけるマッコーリーの挑戦とは The City as a Symbol and a Strategy: Macquarie in NYC

オーストラリアの金融グループであるマッコーリー銀行は、北米本社の移転にあたり、ニューヨークに新たな拠点を構えることが自社にとって何を意味するのかを再定義するため、Perkins&Will × A+Iにプロジェクトを依頼。Fifth Avenueに立つ、挑戦的でありながら歴史的価値を持つビルへの移転デザインを通じて、「Avenue」というコンセプトは単なる空間構成の考え方にとどまらず、空間戦略の姿を借りた経営戦略そのものとも言える存在へと発展した。

Peter Knutson（ピーター・ナットソン）
Principal and the Director of Strategic Design, Perkins & Will

Perkins & WillのStrategic Designプリンシパル兼ディレクター。心理学と生物学を学び、米国国立小児保健・人間発達研究所（NICHD）における細胞神経科学のリサーチフェローとしての研究活動がキャリアの原点となる。余暇の大半を都市・空間・人間の体験をめぐる読書に没頭し、ペンシルベニア大学では建築学の修士号を取得。空間が人と人との関わり方をいかに形づくるかを解き明かすことに情熱を注ぐ。Perkins & Willでは、プロジェクトの根幹となるビジョンづくりに軸足を置き、クライアントやチームとともにニーズや想いを丹念に掘り下げながら、「なぜ（WHY）」を起点とした目的の明確化と合意形成を主導。多様な人々が一つの体験の中に意味と価値を見出していく、複雑で骨太なプロジェクトにこそ真価を発揮。成功とは、好奇心から生まれる。耳を傾け、観察し、仲間とともに考え、より良い問いを投げかけることの先に、より良い空間が生まれていくプロセスそのものにほかならないと考える。

Ellie Sharpe（エリー・シャープ）
Client Engagement Director, Perkins & Will

Perkins & Willが最も重要視するクライアント関係構築全体において、クライアント エクスペリエンスの向上を担う。グローバル・ローカル双方の視点からリサーチと市場分析を重ね、クライアントが建築家やデザイナーに真に求めるものを見極めながら、会社の方向性を形づくることに取り組む。CoreNet Global英国支部の次期会長（President Elect）を務め、Bisnow誌の不動産業界を変える女性リーダーを紹介する「Women Changing the Face of Real Estate」にも選出。建設・不動産業界に入る以前は、プロのパレリーナとしてトレーニングを積み、舞台活動を行った経歴を持つ



ワークプレイス エクスペリエンスの向上 – 人々が活躍できるマルチセンサリー空間の創出とは Elevating Workplace Experience: Creating Multisensory Spaces Where People Thrive

本プレゼンテーションでは、より動的で自然とのつながりを感じられる環境を育むことで人々が活躍できるよう、豊かで生き生きとしたマルチセンサリー（多感覚）体験をワークプレイスにデザインする力を提供することにフォーカスします。「エクスペリエンシャル・デザイン・スキーマ」は、人間の反応を最優先するための新しい言語とフレームワークを提示し、建築科学・健康科学のエビデンスと、デザインおよびマネジメント戦略とを結びつけることで、未来のワークプレイスを支える3本柱「人（People）」「場（Place）」「テクノロジー（Technology）」をサポートする仕組みを伝授します。

Dr Gail Brager（ゲイル・ブレーガー博士）
Professor & CBE Director, Center for the Built Environment (CBE), University of California, Berkeley

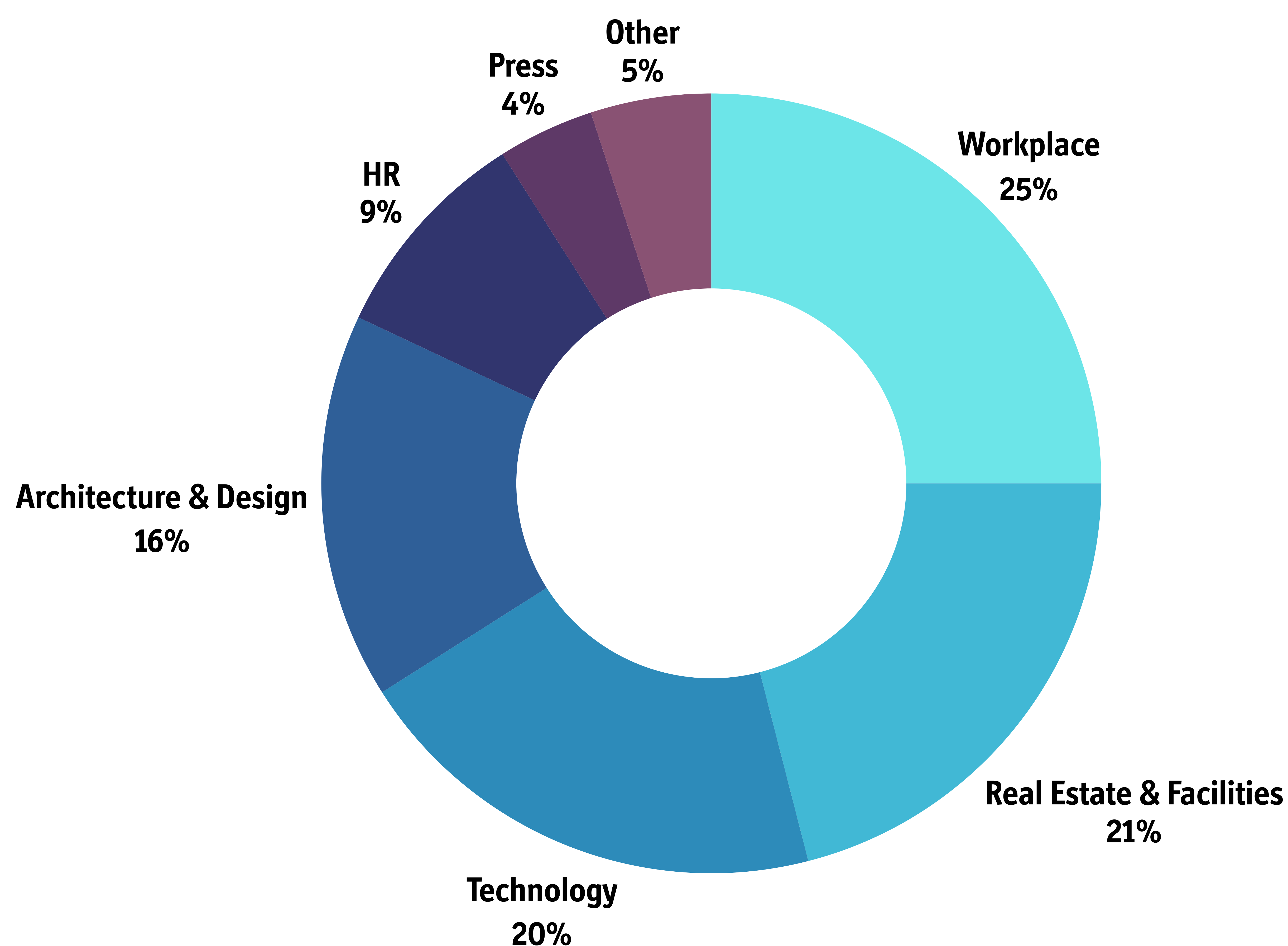
カリフォルニア大学バークレー校（UCバークレー）のBuilding Science, Technology & Sustainabilityプログラムにおいて建築学の特別教授を務める。また、約50社の建築業界パートナーが参画する産学連携の研究センター、Center for the Built Environment（CBE）のディレクターも兼任。1984年に教員として着任して以来、エネルギー消費の削減と室内環境品質・執務者体験の向上を両立させるための教育および応用研究に情熱を注ぐ。近年、Mark DeKay氏との共著『Experiential Design Schemas』を発表し、建築科学・健康科学と建築デザインの交差点を探りながら、建物における喜びや自然とのつながりを高める手法を紹介。



WORKTECH Academyは、仕事の未来とワークプレイスを探求する、世界有数のオンラインプラットフォーム且つメンバーネットワークであり、世界をリードする知識が集結しています。世界ハイレベルのプロフェッショナル達とのグローバルコミュニティにより、最新のインサイト、リサーチ、ケーススタディ及び専門家へのインタビューを共有します。

WORKTECHグローバルネットワークを活用し、People[人材]、Place[働く場所]、Culture[企業文化]、Design[デザイン]、Technology（テクノロジー）、Innovation（イノベーション）の6つの主要分野においてWORKTECH Academyでは最新の知識とアイデアを収集することが可能です。

参加者 職種分布グラフ



非常に有益で、目を見張るような情報、
価値があるカンファレンス

LEGO レゴ 参加者の声

”

有益で、示唆に富み、よく計画され、
スピーカー陣も豊富。毎回新しい発見と出会えます！

UNILEVER ユニリーバ 参加者の声

”



参加申込は
こちら→

www.worktechevents.com/events/worktech26-tokyo/